|  |
| --- |
| **NPO法人森のエネルギーフォーラム** |
| 平成31年度事業報告書 |
| ≪平成31年4月1日～令和2年3月31日≫ |

|  |
| --- |
| 情報管理者：増田副理事長 |

平成３1年度事業報告書

平成３1年４月１日から令和２年３月３１日まで

特定非営利活動法人森のエネルギーフォーラム

１　事業の成果

１．自然エネルギーの住民参加型学習会・フォーラムの開催事業

福井県立大学のオープンカレッジ前期・後期を協働運営することになった。内容は、再生可能エネルギー全量買い取り制度が、昨年からスタートして、このような再生可能エネルギーの政策や動向の中で、福井という地域を軸にその可能性と問題点を検討していきたい。

このことは世界から見た福井の再生可能エネルギーの現在をどのように捉えるかということでもあり、参加者とともに考えてみようと思い実施した。福井キャンパスでの講座では杉村理事長、増田副理事長が中心になって実施した。

また、新たな取り組みとして、これも福井県立大学の研究会「匠の里の地域未来像―今立の和紙文化の継承と現代的発展の応用人類学的研究」の取り組みを活かして、越前和紙の産地の抱える課題や将来展望を被研究対象者の全面的な参加の下実施した。その成果として、「神と紙の里の未来学」（編著：杉村和彦・山崎茂雄・増田頼保　出版社：光洋書房）を出版した。

内容は、和紙の文化伝統の持続性と変貌の地域現象を応用人類学的手法で、地域内部からその変貌の意味世界を描き出す。それは「伝統を守る」ということと「伝統から逸脱し」、新しい和紙の用途や価値を創造しようとする試みの間に激しく揺れている現代の和紙職人たちの選択と創造のうちに生きられた世界を取り出すことであり、その実像を多様なインタビューを用いて、立体的に描き出した。

特に、「伝統」を守ろうとする視点に対して、新しい変化を生み出し、和紙文化の新たな創造ともいえる活動の層を以下の三つの視点から取り出すことに重点を置いた。

**オープンカレッジの開催・協働**

## 平成３１年事業

**◎前期**

**◎第1回　総論―タンザニアの現地で考えたこと**

**【講師】 吉川　守秋／エコプランふくい　事務局長**

**【日時】 5月30日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**◎第2回　タンザニアの現地で考えたこと－タンザニアの風力開発**

**【講師】 増田頼保／福井県立大学非常勤講師**

**【日時】 6月6日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**◎第3回　アフリカの地域の人がわかることわからないこと**

**【講師】 根本泰行／足利大学教授**

**【日時】 6月13日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**◎第4回　ソーラー発電失敗学のマニュアル本を共同でつくる**

**【講師】 根本泰行／足利大学教授、杉村和彦／福井県立大学教授、増田頼保／福井県立大学非常勤講師**

**【日時】 6月20日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**◎第5回　市民発電所と姉妹村運動ーできることは何か？**

**【講師】 竹本沙織／JICA福井、阪本克之／福井大学院生**

**【日時】 6月27日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**◎後期**

**◎第1回　自然エネルギーが繋ぐ２１世紀ー福井とタンザニア**

**【講師】 杉村和彦／福井県立大学教授、増田頼保／福井県立大学非常勤講師**

**【日時】 10月31日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**◎第2回　タンザニアー農村開発と自然エネルギーの可能性**

**【講師】 増田頼保／福井県立大学非常勤講師、根本泰行／足利大学教授**

**【日時】 11月7日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**◎第3回　市民が支える農村発展**

**【講師】 吉川　守秋／エコプランふくい　事務局長**

**【日時】 11月14日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**◎第4回　ここまで来たタンザニア姉妹村プロジェクト**

**【講師】 竹本沙織／JICA福井、阪本克之／福井大学院生**

**【日時】 11月21日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**◎第5回　メディアから見たタンザニア姉妹村プロジェクトの現代的意味**

**【講師】 森瀬　明／福井新聞**

**【日時】 11月28日（木曜日） 19時00分～21時00分**

**２．地域の森林文化の伝承と地域内からの発展を目指した研究事業**

2019年4月6日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2019年4月7日（日）：タンザニア福井市民共同発電所会議（ハピリンボランティアセンター）

2019年4月13日（土）：今立現代美術紙展作家案内

2019年4月15日（月）：紙展打合せ（卯立の工芸館）

2019年4月17日（水）：今立現代美術紙展作家受け入れ

2019年4月20日（土）：アフリカお菓子の会

2019年4月19日（金）～4月26日（日）：今立現代美術紙展現地制作

2019年4月22日（月）：丹南ケーブルテレビ取材（いまだて芸術館）

2019年4月25日（木）：福井タンザニア姉妹村協議会（福井市旭公民館）

2019年4月27日（土）：岡本地区自治振興会総会（岡本公民館）

2019年4月27日〜5月6日：今立現代美術紙展春展展覧会（いまだて芸術館）

2019年5月11日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2019年5月12日（日）：鯖江つつじ句会（鯖江市饗陽会館）

2019年5月15日（水）：越前市文化協議会（越前市文化センター）

2019年5月17日（金）：岡本地区自治振興会文化部会（岡本公民館）

2019年5月19日（日）：右近家住宅見学会（南越前町）

2019年5月20日（月）：県議会議員と会食

2019年5月25日（土）：プレタンザニア福井市民共同発電所（福井県国際交流会館）

2019年5月26日（日）：武生商工会議所で打合せ（武生商工会議所）

2019年5月30日（木）：福井県立大学オープンカレッジ（アオッサ）

2019年5月31日（金）：手わざ工房

2019年6月1日（土）：アンケート調査渡し

2019年6月6日（木）：福井県立大学オープンカレッジ（アオッサ）

2019年6月8日（土）：西野家住宅見学会、今立番傘川柳会（岡本公民館）

2019年6月9日（日）：福井県立大学紙漉きワークショップ（手わざ工房）

2019年6月11日（火）：越前市環境政策課打合せ（越前市役所）

2019年6月11日（火）：大滝町議員会（越前市大滝町）

2019年6月12日（水）：辻一憲県議会議員後援会

2019年6月13日（木）：福井県立大学オープンカレッジ（アオッサ）

2019年6月16日（日）武生あじさい句会（越前市社会福祉センター）

2019年6月16日（日）：福井県立大学紙漉きワークショップ（手わざ工房）

2019年6月20日（木）：福井県立大学オープンカレッジ（アオッサ）

2019年6月22日（土）：手わざ工房、２８会

2019年6月23日（日）：福井県立大学紙漉きワークショップ（手わざ工房）

2019年6月26日（水）：今立現代美術紙展実行委員会（記憶の家）

2019年6月27日（木）：福井県立大学オープンカレッジ（アオッサ）

2019年7月4日（木）：福井県立大学紙漉きワークショップ（手わざ工房）

2019年7月5日（金）：福井タンザニア姉妹村協議会（ハピリン）

2019年7月6日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2019年7月10日（水）：岡本地区自治振興会文化部会（岡本公民館）

2019年7月14日（日）：岡本公民館掃除（岡本公民館）

2019年7月20日（土）：越前市議会議員中西昭雄氏後援会（あいぱーく今立）

2019年7月30日（火）：理事長と打合せ（福井県立大学）

2019年7月31日（水）：ドローン実務者講習会（福井県産業大学）

2019年8月3日（土）：理事長と打合せ（福井県立大学）

2019年8月5日（月）：福井県立大学オープンキャンパス

2019年8月6日（火）：越前市長寿福祉課（越前市役所）

2019年8月10日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2019年8月19日（月）：鯖江市文化協議会（中河小学校）

2019年8月22日（木）：今立現代美術紙展実行委員会（記憶の家）

2019年8月23〜25日（金〜日）：今立現代美術紙展実行委員会（安楽寺）

2019年8月30日（金）：湊七雄教授打合せ（福井大学）

2019年9月1日（日）：福井県川柳大会（アオッサ）

2019年9月4日（水）：クールチョイス落語会（美浜町）

2019年9月7日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2019年9月8日（日）：越前市市長訪問（越前市役所）

2019年9月13日（金）：岡本地区自治振興会文化部会（岡本公民館）

2019年9月14〜15日（土〜日）：クールチョイス落語会（きーぱすフェスタ）

2019年9月16日（月）：福井県ボランティアコイン説明会（ハピリン）

2019年9月21〜10月27日（土〜日）：北陸工芸サミット（サンドーム福井）

2019年9月25日（水）：福井県ボランティアコイン打合せ（大滝旧和紙組合倉庫）

2019年9月29日（日）：福井県立大学「匠の里研究会」（岡本公民館）

2019年10月1日（火）：今立現代美術紙展実行委員会（記憶の家）

2019年10月2日（水）：あすの福井県を創る協会プレゼン会（福井県生涯学習館）

2019年10月4日（金）：岡本地区自治振興会文化部会移動教室（岡本公民館）

2019年10月5日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2019年10月5日（土）：今立元気フェスタ（あいぱーく今立）

2019年10月5〜6日（土〜日）：鯖江文楽公演（立待公民館）

2019年10月8日（火）：岡本公民館イルミネーション打合せ（岡本公民館）

2019年10月9日（水）：今立現代美術紙展作家受入（岡本公民館）

2019年10月10日（木）：今立現代美術紙展ART CAMP作家町歩き（越前市五箇地区）

2019年10月11〜27日（金〜日）：今立現代美術紙展ART CAMP

2019年10月30日（火）：岡本公民館イルミネーション準備（岡本公民館）

2019年10月31日（木）：福井県立大学オープンカレッジ（アオッサ）

2019年11月2日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2019年11月9〜10日（土〜日）：岡本地区自治振興会文化祭（岡本公民館）

2019年11月13日（水）：越前市市民自治推進課野村氏打合せ（越前市役所）

2019年11月15日（金）：岡本地区自治振興会文化祭後片付け（岡本公民館）

2019年11月16〜17日（土〜日）：アピタエコ博（アピタ）

2019年11月19日（火）：丹南広域圏組合竹中氏打合せ（あいぱーく今立）

2019年11月26日（火）：福井県議会議員辻一憲氏打合せ（越前市労働福祉会館）

2019年11月30日（土）：今立現代美術紙展実行委員会（記憶の家）

2019年12月3日（火）：ホテルフジタ会議

2019年12月7日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2019年12月12日（金）：認定こども園岡本餅つき（認定こども園岡本）

2019年12月14日（土）：元気なふるさとづくり研究会（福井県生活学習館）

2019年12月15日（日）：岡本地区自治振興会文化部（岡本公民館）

2019年12月26日（木）：和紙組合理事長石川浩氏打合せ（越前市大滝町）

2020年1月11日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2020年1月19日（日）：岡本地区自治振興会文化部（岡本公民館）

2020年1月25〜26日（土〜日）：木版画講座（卯立の工芸館）

2020年2月1日（土）：和紙組合理事長石川浩氏打合せ（越前市大滝町）

2020年2月8日（土）：今立番傘川柳会（岡本公民館）

2020年2月10日（月）：今立現代美術紙展実行委員会（記憶の家）

2020年2月11日（火）：福井県立大学杉村氏打合せ（福井県立大学）

2020年2月12日（水）：今立現代美術紙展実行委員会（卯立の工芸館）

2020年2月13日（木）：福井市文化会館

2020年2月15日（土）：福井県立大学「匠の里研究会」（岡本公民館）

2020年2月24日（月）：エコプラン会議（アオッサ）

2020年2月28日（金）：２８会

2020年3月7日（土）：越前市たねまる事業プレゼンテーション審査、今立番傘川柳会（岡本公民館）

2020年3月22日（日）：石川浩氏、長田和也氏、西野春喜氏（西野家住宅）

2020年3月23日（月）：玉村久氏、清水一徳氏、円成寺、柳瀬徹二氏、加藤のぶ子氏（福井県立大学）

2020年3月26日（木）：河野通亜氏訪問

2020年3月27日（金）：内田祐樹氏、朝倉由希氏面会（あいぱーく今立）

2020年3月28日（土）：福井県ボランティアコイン報告会

**３．森のエネルギーの実験調査研究開発事業**

◎福井小水力利用推進協議会協働事業

2019年4月9日（火）：福井小水力利用推進協議会理事会（サンワコン）

2019年4月19日（金）：地球環境基金説明会

2019年4月23日（火）：福井小水力利用推進協議会理事会（サンワコン）

2019年6月11日（火）：福井小水力利用推進協議会理事会（サンワコン）

2019年6月24日（月）：福井小水力利用推進協議会理事会（サンワコン）

2019年6月30日（日）：福井小水力利用推進協議会総会（ハピリン）

2019年7月29日（月）：福井小水力利用推進協議会RES会議（大滝公民館）

2019年8月31日（土）：福井小水力利用推進協議会RES会議（大滝公民館）

2019年9月2日（月）：福井小水力利用推進協議会RES会議（サンワコン）

2019年9月30日（月）：福井小水力利用推進協議会RES会議（大滝公民館）

2019年10月28日（月）：福井小水力利用推進協議会RES会議（大滝公民館）

2019年11月24日（日）：福井小水力利用推進協議会岐阜県石徹白視察

2019年11月27日（水）：ふくいまちエネ起こしネット協議会（福井教育センター）

2019年12月17日（火）：名田庄道の駅南川小水力発電協議会（おおい町）

2020年1月20日（月）：福井小水力利用推進協議会RES会議（大滝公民館）

2020年1月23日（月）：福井小水力利用推進協議会RES会議（大滝公民館）

2020年2月7日（金）：ふくいまちエネ起こしネット協議会（福井教育センター）

2020年2月21日（金）：永平寺町長面会（永平寺町役場）

2020年2月27日（木）：永平寺町会議（永平寺町役場）

2020年3月31日（火）：福井県環境政策課渡邊氏面会

**４．自然エネルギーと自然エネルギーを使った芸術の普及・啓蒙事業**参加人数：親子

**紙を使った芸術の普及・啓蒙事業**

**タイトル：第３1回今立現代美術紙展IMADATE ART CAMP春展**

会期：制作期間２０１９年４月１９日～４月２６日

　　　展示期間２０１９年４月２７日〜５月６日

歓迎会：２０１９年４月１７日参加者・関係者の顔合わせ

町歩き：２０１９年４月１８日今立町内町歩き、紙漉き工房見学会

公開制作：２０１９年４月１９日

会場:いまだて芸術館

〒915-0242 福井県越前市粟田部町 11-1-1

**タイトル：第３１回 今立現代美術紙展　IMADATE ART CAMP 2019春展**

参加作家：10人、来場者約１，０２９人

**開会式：２０１９年４月２７日(土曜日) 午後1時から**

シンポジウム：２０１９年４月２７日(土曜日)午後2時から

ゲスト：BIWAKOビエンナーレ代表　中田洋子氏

参加作家：10人、来場者約50人

**閉会式：２０１９年５月６日（日曜日）午後2時から**

ライブ・パフォーマンス　ゲスト：バッカナル、加藤美香、山下憂

会場:いまだて芸術館ホワイエ

〒915-0242 福井県越前市粟田部町 11-1-1

参加作家：10人、来場者約70人

**タイトル：第３１回 今立現代美術紙展　IMADATE ART CAMP 2019秋展**

参加作家：７人、来場者約２，０１８人

会期：制作期間２０１９年１０月９日～１０月１８日

　　　展示期間２０１９年１０月１９日〜１０月２７日

歓迎会：２０１９年１０月７日参加者・関係者の顔合わせ

町歩き：２０１９年１０月８日今立町内町歩き、紙漉き工房見学会

公開制作：２０１９年１０月９日

会場:

あいぱーく今立（今立総合支所） 福井県越前市粟田部町9-1-9

西野家住宅　 福井県越前市定友町4−8−1

岡本公民館　 福井県越前市定友町10−2−2

信洋舎製紙所　 福井県越前市定友町12−13

越前市手わざ工房　 福井県越前市新在家町2−26−1

越前市卯立の工芸館　 福井県越前市新在家町9−21−2

福井県和紙工業協同組合旧倉庫　 福井県越前市大滝町11−11

元山下ブリキ店　 福井県越前市大滝町11−8−1

元オーマート　 福井県越前市大滝町25−19

記憶の家　 福井県越前市大滝町27−16

円成寺　 福井県越前市大滝町24−13

安楽寺　 福井県越前市大滝町27−40

**開会式：２０１９年１０月１９日(土曜日) 午後６時から**

会場：岡本公民館 越前市定友町10−2−2

参加作家：15人、来場者約158人

**ライブ・パフォーマンス**：Paper Ensemble(Jochem van Tol氏、Ibelisse Guardia Ferragutti氏)

**ライブ**：加藤美香氏、半分じゃず（山口秀法氏、大谷貴之氏、上坂朋佑氏）

**ライブ・ペインティング**：辻井潤子氏、木村若菜（若冲）氏

**アーティスト・トーク：２０１９年１０月２０日(日曜日)午後2時から**

会場：越前市卯立の工芸館　 福井県越前市新在家町9−21−2

ゲスト：Aïdée Bernard氏、Thomas Collet氏、Nicholas Cladis氏、Paper Ensemble(Jochem van Tol氏、Ibelisse Guardia Ferragutti氏)、木村若菜（若冲）、湊　七雄氏、

参加作家：15人、来場者約64人

**ライブ・パフォーマンス：２０１９年１０月２０日（日曜日）午後４時から**

ゲスト：Thomas Collet氏、Nicholas Cladis氏、村田菜穂氏

会場：Thomas Collet氏は西野家住宅　福井県越前市定友町4−8−1

会場：Nicholas Cladis氏、村田菜穂氏は越前市卯立の工芸館　福井県越前市新在家町9−21−2

参加作家：15人、来場者約144人

**創作和紙ワークショップ：２０１９年１０月１３日(日曜日)〜随時**

会場：越前市手わざ工房 福井県越前市新在家町2−26−1

参加作家：５人、参加者約18人

**活版印刷ワークショップ：２０１９年１０月１９日(土曜日) 〜随時**

会場：信洋舎製紙所　 福井県越前市定友町12−13

参加作家：３人、参加者約10人

今年は、「IMADATE ART CAMP 2019」を開催することになった経緯を少しばかり説明させていただきますと、今立現代美術紙展(以下、紙展)の40年にわたる歴史の中で、「ART CAMP」と名付けられた展覧会は1996年から数えて計7回目にあたります。昨年の紙祖神　岡太神社・大瀧神社1300年大祭・御神忌の年にあたり、1300年に因んで「第30回記念今立現代美術紙展1300展」とし、長い越前和紙の歴史に対するオマージュとして実施したものでした。今回の「IMADATE ART CAMP 2019」は、紙展の原点であります、今立現代美術紙展の当初からの「紙の実験展」に続くものでした。1979年の「紙の実験展」が第1回目。1980年の10回を記念しての実験展を契機に、隔年開催の実施を模索してきました。

そして、実行委員会の中から、現代芸術を取り巻く問題や解決方法を模索する実行委員会が研究体としての位置付けで「IMADATE ART FIELD」というコンセプトを生み出しました。当初より、紙の実験を行ってきた紙展ですが、紙漉きの里である「越前和紙の里＝今立」地域を舞台に展覧会を実施して、展覧会場としての実験を再度行うために、作家と地域の関わりを深く掘り下げてみようということで実施したものです。

このIMADATE ART CAMPは、いわゆるアーティスト・イン・レジデンスで、開催地の旧今立地区(現在の越前市)に滞在しながら制作するものです。「越前和紙の里＝今立」にある環境、地域に住む人々、文化、歴史などを肌で感じながら生まれてくる作品を展覧会という形で発表します。当然、制作中の作家たちの姿に触れることもできますし、声をかけて話し合うこともできます。そうした触れ合いの中に新しい人間関係が築かれてくるでしょう。

今回、春展の公募で参加してくれた作家たちの中には、海外から応募されて来てくれたり、地元高校生の参加もあったり、二人で一つのユニット「こそてとら」など幅広い展覧会になりました。そして、秋展ではフランス、アメリカ、オランダ、日本の招待作家たちの作品を春展の作品と合わせて「今立のまちなか」で展開することになりました。様々な会場で関わることになった地域の人々と作家の間に、legend＝一つの伝説が生まれてきました。

それもそのはず、この地には昔から作家とこの地域の結びつきが強い、正に緊張の中から発現してくる関係性は、この地域に脈々と底通する志向性があったことが関係者の証言が浮かび上がってきました。明治・大正・昭和を代表する日本画家「横山大観」は岩野平三郎氏のところへ、同じく京都画壇の代表者「竹内栖鳳」は今回会場として初めて使わせていただいた「西野家住宅」で逗留していたということで、アーティスト・イン・レジデンスの聖地のようです。

例を述べると、木村若冲（若菜）の仏画教室では、紙漉き職人が多く参加し、地域の一般の人も巻き込んだ参加型ワークショップになりました。また、辻井潤子の紙漉き公開ワークショップでは、シンガポールから総勢12人の参加がありました。

そして、10月19日の開会式は、国会議員、福井県議会議員、越前市議会議員はじめ多数の来賓が各自祝辞を述べると共に、招待作家の自己紹介は大変和やかな内に修了しました。

開会式に続くオランダからのPaper Ensembleのライブ・パフォーマンスには100人を超えるお客さんがお見えになり、Paper Ensembleの制作した紙作品が静寂の中から生み出す音の造形空間は、研ぎ澄まされた緊張感を来場者に与えました。



翌10月20日のシンポジウムの後、「西野家住宅」でフランスの作家Thomas Colletの「RAN７.３-Le verso」ライブ・パフォーマンス。



「卯立の工芸館」でアメリカの作家Nicholas Cladisと伝統工芸士「村田菜穂」とのサウンド・アート・ライブ・パフォーマンスのコラボレーション「village tones（里の音色）」はこの展覧会のlegendとなりました。ご紹介したのはほんの一例ですが、Aïdée Bernardの極薄の自作の草紙による透かしポエムの入った作品には、大滝の滝前での自撮りダンスを投影させる複合的な作品が螺旋を描いて舞い上がっていたし、湊七雄の作品は「西野家住宅」の蔵における窓明かりを日本古来の方法としての観月的な楽しみ方を想起するような写し絵の作品となりました。

それぞれ生まれた環境や風土が違う中で、偶然にもこのART CAMPという機会を得て、一堂に出会った訳ですが、作家たちが寝食を共にしながら制作する一つの試みとしては実験的であり、様々な可能性に満ちたものとなりました。

紙をテーマにした展覧会は、地域の越前和紙の産地の協力の下で開催されてきました。福井県下の一般市民へのアピールを始め、県外からの作家関係者、一般観光客などへ、和紙の持つ様々な可能性を、この展覧会を通じて独自の和紙文化を理解してもらえる効果の他、岡太神社・大瀧神社の参拝客にも和紙の魅力をアピール出来ました。また、公募を行ったことにより、新しい作家の方やワークショップ参加者が増えて実行委員会としても大成功となりました。今年は福井国体があるのでそれらのアピールとしても福井を認識していただける機会の提供になります。

|  |
| --- |
| ①紙を使った美術展の開催事業 |

**第３１回 今立現代美術紙展　IMADATE ART CAMP2019春展の募集要項**

**第３１回 今立現代美術紙展　IMADATE ART CAMP2019春展のチラシ**

**2019年４月20日付け福井新聞記事**

**2019年４月28日付け福井新聞記事**

**第３１回 今立現代美術紙展　IMADATE ART CAMP2019秋展のチラシ**

**第31回 今立現代美術紙展　IMADATE ART CAMP2019** Aïdée Bernard**展のチラシ**

2019年9月23日付けAïdée Bernard**展の福井新聞記事**

**第３１回 今立現代美術紙展　IMADATE ART CAMP2019秋展会場マップ表面**

**第３１回 今立現代美術紙展　IMADATE ART CAMP2019秋展会場マップ中面**

2019年10月20日付けIMADATE ART CAMP秋**展の福井新聞記事**

|  |
| --- |
| ②和紙文化の伝承と地域内からの発展を目指した研究事業 |

１．越前和紙を現代から見た地域の可能性について研究したものを出版

福井県立大学の地域貢献事業にリンクする形でIMADATE ART　FIELDのメンバーがインタビュー・記録・編集・執筆などを担当して完成した成果物。

**この地図を見て会場を回る**

**５．地域と共に生きる紙を中心にした芸術のまちづくりのための推進・構築・研究事業**

**●福井県立大学で地域の文化を推進・研究する戦略的課題研究推進支援「歴史、文化、産業などで埋もれている「実は福井」を探る」として「越前和紙の世界的展開と現代的可能性に関する実証的研究―アメリカ・ヨーロッパにおける木版画利用を中心にして―」協働**

研究期間は、2019年4月から2021年3月までで、研究内容は、福井県の伝統工芸は、日本の中でも卓越する特色を有するものであるが、これまで国内外の観光事業の展開の中では必ずしも焦点化されてこなかった。このような中で、福井の歴史・文化を掘り起こし。特に工芸観光事業などの中でその可能性を打ち出していくためには、今日大きな高まりを見せている日本の伝統工芸の世界性、その評価に着目する必要がある。そして、コアなファン層が、世界的なインバウンドを誘導していることに着目してきた。

本研究は、昨年度まで申請者が代表で取り組んできた、**『越前和紙のデザイン性、芸術性、世界性に関する「匠の里研究会」』**を基盤として、越前和紙の世界的展開の課題と可能性を、今日、世界の中で急速に拡大している木版画利用に焦点を当てて、学際的視点から検討する。

この研究では、

１．アメリカを中心に欧米での和紙の世界的展開を、これまであまり注目されてこなかった木版画の世界を中心に実証的に明らかにする。

２．国内の和紙産地の中で、越前和紙の特質とその可能性を世界遺産に登録された産地と非登録産地との比較検討をする。

３．世界的なジャポニズムの歴史の中における木版画を中心にした和紙の位置を明らかにする。

本研究では、福井県和紙工業協同組合の青年部の方たちと連携して研究活動を行う。これは本学が目指すオープン・ユニバーシティ構想にふさわしい、地域住民と連携した研究実践であり、研究活動自身が住民の内発的発展を支えるものにもなる。

実績報告：

１.福井県和紙工業協同組合の石川浩理事長にインタビューを行い、録音テープを文字化・翻訳した。この中で、プラットフォームとアーティスト・イン・レジデンスの関係を和紙産地から見てどのように考えているかをイメージしているかが重要な要素である事が関係者の証言からも裏付けられた。

２.予算削除のため実施出来なかった。

３.予算削除のため実施出来なかった。

４.福井大学の湊七雄教授に事前協議、訪問、背景などのインタビュー、「匠の里研究会」で講演を依頼し、その講演録を作成し、テープ起し・翻訳した。

５.ネットによる文献調査

６. IMADATE ART FIELD（今立現代美術紙展実行委員会）による水彩木版画講座を実施することによって、産地周辺に住む一般的な住民の嗜好に対する受入れ度合いを分析し、その背景となる自己実現への手助けの一助になっている事を確認した。インスタグラムやフェイスブックにアップ

７.特にこのプロジェクトの中心的課題である、世界性に関する知見として、マイクロ・レジデンスを実際に運営している村田達雄氏に「匠の里研究会」で講演を依頼し、その講演録を作成し、テープ起し・翻訳した。

８.ネットによる文献調査

自己評価：

１. 福井県和紙工業協同組合の石川浩理事長にインタビュー：調査記録ビデオ、録音、テープ起し、翻訳―ネットによる文献調査

２.予算削除のため実施出来なかった。

３.予算削除のため実施出来なかった。

４.福井大学の湊七雄教授に事前協議、訪問、背景などのインタビュー、「匠の里研究会」で講演：調査記録ビデオ、録音、テープ起し、翻訳―ネットによる文献調査

５.ネットによる文献調査

６.調査記録ビデオ、録音、テープ起し、翻訳

７.調査記録写真、作品例

８. 特にこのプロジェクトの中心的課題である、世界性に関する知見として、マイクロ・レジデンスを実際に運営している村田達雄氏に「匠の里研究会」で講演：調査記録ビデオ、録音、テープ起し、翻訳

９.国際紙会議参加申し込み、国際木版画会議参加申し込みは、コロナ影響で来年に延期になった。

（１）変更の有無

世界的な新型コロナ・ウィルスの影響で、予定していた国内・国外への調査が出来なくなっている状況の中で、止むを得ず変更しなければいけない箇所が出て来ている。その為、国外調査は殆ど渡航禁止、若しくは入国禁止に近い状況なので不可能と判断した。また、国内に於いても福井県内で感染者が出た以上、和紙産地の現状を把握することは移動そのものに制限が掛かっているので、メールやネットによる情報収集に徹する状況である。

（２）変更点（概要）と変更の理由

２.ヨーロッパ（スペイン、フランス、オランダなど）を軸に顧客の動向を把握し、大学や研究所など連携拠点を確立する。

変更の理由→（新型コロナ・ウィルス対策上、状況を見ながら判断する）

５.ジャポニズムの中の越前和紙と木版画用紙の位置、その文化、歴史などフランスやスペイン、オランダなど印象派の作家たちに影響を与えた木版画の世界的な意味性を検証する。

変更の理由→（新型コロナ・ウィルス対策上、状況を見ながら判断する）

７.和紙の他の伝統工芸の世界性との比較研究で特に注目されている、芸術が地域社会に与える影響力について、ドイツのドクメンタやイタリアのベニス・ビエンナーレ、スペインのアルコなどの国際的な展覧会を取り巻く画廊や作家たちあるいは開催地での一般市民の反応を取材する。

変更の理由→（これを予定していたが、新型コロナ・ウィルス対策で、渡欧が困難であるので国内でのドイツ文化センターやスペイン大使館、イタリア大使館などを通じて情報収拾する。）

**●福井県立大学地域連携研究推進支援事業「世界につながる和紙の里のプラットフォームの構築－AIR事業との連携を中心にー」協働**

と題して実施中。

研究目的：「工芸の里」全体のプラットフォーム構想をステークホルダーに相互理解・醸成する活動

**「工芸の里プラットフォーム」の構築**

福井県には、世界に誇れる越前和紙をはじめとして、越前漆器、越前焼、越前内刃物など嶺北地域独自の田園工芸・文化芸術による経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組が求められている。それは、各産地が直面する新たな時代への対応に苦慮しながらも、導入せざるを得ない時代背景の中で、製品のデザイン力・ブランド力・発信力それぞれの分野で立ち遅れながらも模索している現状を見て、折角の中小企業中央会を通じて獲得した産地ブランド展開の企画さえも、中央のシンクタンクなどに発注してしまい、工芸産地に製品のデザイン力・ブランド力・発信力が醸成されない事態になっている。

これまでの経過として、越前市では「工芸の里」構想が発足し、工芸の産地特に打ち刃物を中心に整備を進めてきた。越前市の観光協会は「打ち刃物」の他に「越前和紙」、「越前箪笥」を中心に工芸観光に力を注いできた。近年はこれに国からの「インバウンド対応の予算」億単位で付けられている。

この研究では、産地自身が抱える人財に加えて、福井県立大学の高度な知識力と幅の広いネットワークでこれらのシンクタンク機能を産地の中に内部化し、ウィークポイントとなっている、製品のデザイン力・ブランド力・発信力を自らの力で解決出来るような、ネットワークを形成させることが急務とされる。図らずして、2018年から杉村・山崎が組織する「匠の里」研究会では、この地域への関わりの中から、ステークホルダー自身による調査・研究・意見の発言などを行ってきた。

また、福井県和紙工業協同組合でも、産地のブランド化に向けて、次期後継者となる世代を中心に、ブランドの発信・お客の受け入れなどを実施している。そこで、和紙組合だけでも手が回らないところがあるし、地域社会でも地域の文化財など維持・保存を奨励するような動きや、ふくいヘリテージ協議会を中心に登録有形文化財の有効利用を模索する中で、固定的な組織化というよりも身軽な感じで気軽に参加できるような、形はあるけれども流動的に参加できる一種の組織（シンクタンクもしくはプラットフォーム）を構築することで、産地内部に意識化され、実際に仕事としても発注できるような組織の構築を目指す。

ところがこうした莫大な予算の陰には、中央のシンクタンクが控えており、ほとんどの執行予算が吸い取られている。関係者の話によると、国から降りて来る予算の６割〜７割が中央のシンクタンクに吸い上げられている。これでは、いつまで経っても、中央の言いなりというか、せっかく降りてきている予算の使い道がこの地域に流れて行かない。むしろ、産地自身の中にシンクタンク機能を持てる組織化によって、人財も地域に残るし、痒いところにもちゃんと手が届くような事業計画が作成されるようになる。その受け皿としての組織（シンクタンクあるいはプラットフォーム）を福井県立大学の地域連携研究推進支援事業として実施したい。

**●「アーティスト・イン・レジデンス」の多ジャンル化・メディア化と情報発信**

その取組み方法として、アーティスト・イン・レジデンス（による「教育プログラム」の創出）をこの事業の一方向性として揚げたい。その理由は、世界からのトップクラスの芸術家や識者、経験者、思索者などをこの地に呼んで、感じてもらい、一種のファンになって貰おうというもの。そのことは、個人的な感性の問題ではなく、受け入れ地の印象から、新しいレジェンドが生まれる。画壇で有名な、岡倉天心（福井藩）の下に集まった、横山大観、下村観山、菱田春草、竹内栖鳳、小杉放庵など日本を代表する画家たちのアーティスト・イン・レジデンスがご当地なのである。この画家たちの日本画用紙の使用がこれまでの越前和紙の原動力となっていた事は事実としてあった。

しかし、それだけでなく機械漉きの中性紙、弱アルカリ性紙、汎用性のある版画用紙・壁紙・印刷用紙など多種・多用途の和紙の生産地でもある。

また、世界的なトレンドとしての木版画の普及は、あまり大きな版画用の機械を導入しなくても扱える手軽さから、一般人の趣味世界で広がりを見せている。つまり、アート用品の製品化も急務なのである。（「絵の具開発・文具開発・ステーショナリー」の開発）

たまたま時を同じくして、愛知県豊田市で、国際紙会議が9月。奈良県奈良市で国際木版画会議が11月に開かれる。居ながらにして、世界各国のアーティストが一堂に日本に終結する時に合わせて、越前和紙の産地に案内するエクスカーションを設けて、未知のレジェンドを創り出す機会となる様に行動する。（「国際会議」のための人的交流開発・ファンクラブの創出）

○連 携 先

福井県和紙工業協同組合

岡本地区自治振興会

岡本公民館

越前市工芸の里構想委員会

越前市・越前市教育委員会（千年未来工藝祭2020）

丹南広域圏組合

登録有形文化財所有者（西野家住宅、旧根岸家住宅、西野弥平次）

今後：岩野平三郎住宅、杉原商店、細井憲磨氏アトリエを対象

IMADATE ART FIELD（今立現代美術紙展実行委員会）

○研究概要

福井県には、世界に誇れる越前和紙をはじめとして、越前漆器、越前焼、越前内刃物など嶺北地域独自の田園工芸・文化芸術による経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組が目標

「千年未来を見通した結い村構想研究会」コンセプトや世界からの和紙アクセスに対する情報発信

「アーティスト・イン・レジデンス」を通年で開催しながら和紙フリークを醸成

世界紙会議、木版画世界会議など「国際会議」のエクスカーション誘致

「工芸の里プラットフォーム」が世界に開かれている状況の経済的価値等創出

国内はもとより海外の芸術大学、美術大学など和紙ニーズへのサポート機関としてワークショップ等の「教育プログラム」として経済的価値等の創出「天然繊維・天然素材」の栽培、研究、開発から幻人は元より、素人でもアクセスし易い情報の発信・収集

デザインニーズの掘り起こしによって、「絵の具開発・文具開発・ステーショナリー開発」など関連の事業創出と流通経路確立

新幹線開通に合わせた「南越駅周辺のアート化」貢献で地域イメージを発信

**２．**西野家住宅の利用形態に関する研究

登録文化財西野家住宅は、江戸・明治・大正・昭和とそれぞれの時代に増築・改築が行われた。

2018年の豪雪により痛んだ家屋の修復に地域のNPOやヘリタージ・マネージャーで構成するヘリテージ協議会とIMADATE ART FIELDの活動を実績として修復に関する助成金の申請を郵便局のお年玉寄付金を利用できるよう助成金申請を行った。

３．**第31回 今立現代美術紙展IMADATE ART CAMP2019展春展**の開会式で、福井県議会議員辻一憲氏、細川かをり氏、越前市議会議員清水一徳氏、をはじめIMADATE　ART　FIELD理事の河野通亜氏、黒川繁夫氏、杉村和彦氏、それぞれが祝辞を述べ、出品作家が全員自己の作品についてレクチャーを行った。

2019年4月27日開会式の様子

それに続き、BIWAKOビエンナーレ実行委員会の代表の中田洋子氏と増田代表の対談を開催。

同展の閉会式には、音楽家：バッカナル（酒井潤氏、遠田正幸氏）、加藤美香氏、山下憂氏を招いて最後の時を盛り上げた。バッカナルは、参加作家一つ一つの作品を見てイメージを膨らませて即興で演奏した。加藤美香氏は、ソプラノと自作の楽曲を披露。山下憂氏は神奈川在住の地元越前市出身の歌手で、オリジナル曲をギターで弾き語り披露。

加藤美香氏

山下憂氏

バッカナル（酒井潤氏、遠田正幸氏）

**４．第31回シンポジウム**：について、会場に来ていた参加作家や関係者などのお話を交流させて実施しました。

|  |
| --- |
| ③紙の造形作品等の実験・調査・研究・開発などの事業 |

**第１弾：春展・秋展会期中の創作和紙ワークショップの実施**

**第２弾：福井県立大学の創作和紙ワークショップの実施**

**第３弾：夏の創作和紙ワークショップの実施**

**福井県立大学学生への創作和紙のワークショップ指導**

**福井県立大学学生への創作和紙のワークショップ指導**

**第４弾：秋展の創作和紙ワークショップの実施**

オランダからの参加者

シンガポールから12人の参加者

シンガポールから12人の参加者

**このマップを片手に大滝町周辺の展覧会場を巡るアート・ツーリズムの手法を模索しました。**

|  |
| --- |
| ④紙を使った芸術の普及・啓蒙事業 |

広域的活動支援事業

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １　事業名 | 越前和紙を世界に発信する水彩木版画プロジェクト | |
| ２　申請者 | IMADATE ART FIELD（今立現代美術紙展実行委員会） | |
| ３　事業実施期間 | 令和元年１１月１日から令和２年２月１日まで | |
| ４　地域の宝 | 越前和紙　水彩木版画　紙漉き職人 | |
| ５　事業の目的 | 越前和紙を世界に発信する水彩木版画プロジェクトは、福井の代表的な伝統工芸品である越前和紙を水彩木版画にして世界に発信することで芸術界、デザイン界、インバウンドの方々へのアピールになり、地域の活気づけにもなるかも知れない可能性を目的にします。 | |
| ６　事業の成果 | 特に、今年は国際北陸工芸サミットが福井県で行われますし、来年はオリンピックが開催され越前和紙が国立競技場にも使われるなど国際的な展開が期待されているからです。 | |
| ７　事業の内容 | 全5回の水彩木版画ワークショップを行う | |
| （１）実施場所 | 越前市卯立の工芸館、岡本公民館 | |
| （２）対象者 | 一般市民、観光客など特に問わない | |
| （３）スケジュール | 卯立の工芸館では、希望者に解放、ただし、印刷や発信する許可をもらう。  卯立の工芸館や岡本公民館で5回の水彩木版画ワークショップを行う | |
| 実　　績 | 内　　　容 |
| 打合せ  12月9日 | 福井大学湊七雄研究室にて全員メッセンジャーでの連絡メーリングリスト確保 |
| 打合せ  12月11 日 | 福井大学湊七雄研究室にて全員 |
| 打合せ  12月12日 | 講師のプロフィール確認 |
| 打合せ  12月13日 | 講師のプロフィール確認 |
| 打合せ  12月18日 | チラシ原案確認、2,000枚注文 |
| 打合せ  12月23日 | 福井大学湊七雄研究室にて準備物について、井ザワ画房に発注 |
| 打合せ  1月9日 | 福井大学湊七雄研究室にて全員レクチャー練習 |
| 1回目  １月11日 | 水彩木版画ワークショップ |
| 2回目  １月12日 | 水彩木版画ワークショップ |
| 3回目  1月18日 | 水彩木版画ワークショップ |
| （３）スケジュール | 4回目  1月19日 | 水彩木版画ワークショップ |
| （３）スケジュール | 5回目  1月25日 | 水彩木版画ワークショップ |
| 1月25日〜30日 | Instagram、Facebook、Google、Twitterに発信サイトを開設、英語化  Facebook  Instagram  Google  Twitter |
| 2月3日 | 事業報告書作成 |
| （４）内容と方法 | 水彩木版画ワークショップと参加者のコメントを英語化しインスタグラムに発信する  <https://www.facebook.com/Imadate.Art.Field/>  <https://www.instagram.com/imadatekamiten/?hl=ja>  <https://business.google.com/posts/l/10217215360024997156?hl=ja>  <https://twitter.com/yoriyasumasuda> | |
| （５）広報方法 | チラシを作り広報（別紙添付）  Facebook、Instagram、Twitter、Googleにアップし広報  和紙のミニポスターを水彩木版画で作り広報 | |
| （６）実施体制 | 主催：IMADATE ART FIELD（今立現代美術紙展実行委員会）  共催：福井県和紙工業協同組合  協力：福井大学　福井県立大学　匠の里研究会 | |
| ８　その他  （反省点、今後の展開等）  事業のアピールポイント | １.越前和紙を水彩木版画の媒体とすることで創作の楽しさを味わってもらった。  ２.作品の魅力が越前和紙の魅力に繋がった。  ３.自分の作品がワークショップを通じて他の参加者と共有できた。  ４.世界に発信するために英語化されたサイトを作った。 | |
| 事業の新規性・独自性 | １.アピールポイントの項目全て、これまでやったことのない新規事業だったので、とにかく満足度の上がる様な日程調整と越前和紙の選定を行って卯立の工芸館の生漉き楮紙、岩野市兵衛（人間国宝）生漉き奉書紙、機械漉き雁皮紙、楮帳紙２種、画仙紙、半紙、鳥の子紙など多数用意した。  ２.独自性として、手漉きの越前和紙を使い水彩木版画を創る  ３.観光地の立場から、和紙が生活の中で使われる事がこの地域の一つの教育の視点であることを、生産の現場としての立場をはっきりと表明する | |
| 事業の発展性 | １.これはいかなる場所でも実施可能であるので、出張ワークショップが将来的にできるようコンパクトに収納ボックスなどを整備したり、スーツケースに一式を詰めたりして移動できるツールにしたい。  ２.海外でも展開可能。 | |
| 「地域の宝」に対するビジョン等 | これまで、「地域の宝」である越前和紙をテーマにIMADATE ART FIELD（今立現代美術紙展実行委員会）や、福井県和紙工業協同組合などのステークスホルダーが、福井県立大学主催の「匠の里研究会」で、越前和紙を歴史から紐解いて、現在生きている職人たちや、後継者となる若手に直接インタビューし記録したものを一冊の本「越前和紙の里の未来学」と題し出版した。今回は、これらの当事者に直接聴き取り調査を行い、越前和紙産地の多様性や、アーティストとの関わりなど、世界性にも着目し丹念に検証しながら、外国人が見た越前和紙や海外での評価をも記述し、今一番かけている要素を戦略の中心に据え動き出そうとしている。 | |
| プラットフォームとしての活動 | 地域に最もかけている分野や不得意とする分野でのマンパワーを提供し、サポートすることで、しっかりとした商品開発や情報提供を適材適所で実現できる様になる。その様な交通整理的なセクションとして一つの役割を担う部署を確保する。 | |
| その他 | 今立現代美術紙展では、これまで現代芸術を中心に企画を行ってきた。その中で、アーティスト・イン・レジデンスのノウハウを養ってきた。福井県和紙工業協同組合でも、時を同じくして越前和紙のブランディング化を進めており、その計画の中でもアーティスト・イン・レジデンスや和紙作品に対するBespoke Washi Echizen（オーダーメイドできる越前和紙）を目指している。 | |

|  |
| --- |
| ⑤地域と共に生きる紙を中心にした芸術のまちづくりのための推進・構築・研究事業 |

細井憲摩氏のアトリエ

|  |
| --- |
| ⑥行政・研究機関に対する芸術・文化などの政策提言事業 |

1. 丹南広域圏組合や福井県和紙工業組合などに、インバウンド事業、アーティスト・イン・レジデンス事業などを提言。
2. 福井県庁地域戦略部県民生活課に登録文化財を中心とした伝統的建造物群保存地区の意向確認。
3. 福井県産業労働部地域産業・技術振興課、地域戦略部県民活躍課、安全環境部環境政策課、教育庁生涯学習課・文化財課、総務部知事公室秘書課、福井県交流文化部文化課文化振興グループなどに政策提言。

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozonchiku/>

1. 岡本地区自治振興会文化部における古民家および登録文化財への意向確認のための調査実施。
2. 越前市市民協働課、文化課、環境政策課、産業政策課、建設部都市整備課、地域振興課、市民福祉部健康増進課などに文化政策提言。
3. 福井市長、福井市建設部区画整理課、福井市商工労働部観光文化局おもてなし観光推進課、福井市市民生活部環境課などに政策提言。
4. 福井県立大学研究計画書〔戦略的課題研究推進支援〕「匠の里の地域未来像―今立の和紙文化の継承と現代的発展の応用人類学的研究」および、学長テーマ「歴史、文化、産業などで埋もれている「実は福井」を探る」「越前和紙の世界的展開と現代的可能性に関する実証的研究―アメリカ・ヨーロッパにおける木版画利用を中心にして―」を実施中。通称「匠の里研究会」

|  |
| --- |
| ⑦FacebookやLineなどのSNSの情報提供や会員募集などを行う事業 |

**Facebook上のIMADATE ART FIELDのページ**

<https://www.facebook.com/Imadate.Art.Field/>

https://www.instagram.com/imadatekamiten/